

漏斗胸ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30681

漏斗胸ニ就テ

金澤醫學專門學校近藤内科教室

大中貞治 郎

W. Ebstein⁽¹⁾ニヨリテ命名セラレタル漏斗胸ハ、比較的稀有ナル畸形ニ屬ストハ内外醫家ノ均シク唱フル所ナリ。而シテ之ヲ文獻ニ徵スルニ、歐洲ニ於テハ其報告比較的多數ナルニ拘ラズ本邦ニ於テハ甚ダ稀ナリ。然レドモ之ヲ以テ直ニ本畸形ガシカク我國ニ稀有ナルヤ否ヤハ疑ハシ。臨床家ハ時トシテ斯クノ如キ畸形ニ遭遇スルコトアルモ特ニ臨床上ノ興味ヲ感ゼザルヲ以テ報告セザル場合モアラン。橋本氏近世診斷學⁽²⁾ノ如キモ既ニ本邦人ニ實驗セル漏斗胸ノ寫像ヲ掲載セリ。余ハ最近、近藤内科外來診察所ニ來レル患者中、著明ナル漏斗胸ノ二例ヲ得タルヲ以テ茲ニ之ヲ略記シ、後日ノ參考ニ資セントス。

漏斗胸トハ、胸骨下部ノ高度ノ凹陷ニヨリ、前胸壁及ビ前腹壁上部ノ中央ガ、漏斗狀ニ陷没セルモノヲ稱シ、其廣狹及ビ深淺ハ元ヨリ種々ナレドモ、高度ナルモノハ概シテ、上方第二肋骨部ノ高サヨリ、下方心窩部ニ亘リ、凹窩ノ最深部ガ殆ンド脊柱ニ達セルガ如キモノアリ。

其發生數ハ男子ニ多ク、女子ニ少シ。H. Ebstein⁽³⁾ニヨレバ九十七例中、男子八十七例、女子十例ナリ。發生原因ニ關シテハ諸家各其說ヲ異ニス。今試ミニ之ヲ略述スレバ次ギノ如シ。

松岡道治氏⁽⁴⁾ハ、本畸形ハ時トシテ先天性ニ來ルコトアレドモ、多クハ後天性ニ屬シ、佝僂病者ニハ既ニ生後一年ニシテ發生シ、又ハ呼吸障礙ノ結果發生スト云フ。其他 H. Bruns⁽⁵⁾等モ其著書中ニ、輕度ナルモノ(靴工胸等)ハ職業ニヨル機械的壓迫ノ爲メニ起レドモ、高度ナルモノハ多クハ佝僂病ト關係スト記載セリ。之ニ反シ、W. Ebstein 及

W. M. Versé^②等ハ本病ニハ關係ナシト云ヘリ。

Niemeyer^③ハ Eggel^④ノ例ニ就イテ解説ヲ爲シテ曰ク、分娩時榮養障礙又ハ發育抑制ノタメ胸骨ガ異常ニ撓屈性ニシテ、殊ニ其上部ハ肋骨ト適當ニ結合スルモ、下部(其部ノ肋骨ハヨリ長ク且ツ緩慢)ハ空氣ノ壓迫ニ委スルガタメ、兒ガ生後第一週ニ於テ強呼吸ヲ初ムルヤ否ヤ、呼吸毎ニ胸骨ノ下部ガ胸腔ニ壓迫セラレ漸次凹窩ヲ形成スト。又、W. Ebstein^⑤ハ胸骨ノ發育ガ緩徐ナルガ爲ナリト云ヘリ。之レ同氏ガ外觀上、胸骨ノ正常ヨリモ著ク短小ナルヲ認メタルガ故ナルベシ。サレド、Versé^②ニヨレバ、生體ニ於ケル計測數ハ、屍體剖檢ニヨルモノト一致セザルガ故ニ、生體ニ於ケル計數ヲ以テ實大ヲ推定スルハ確實ナル結果ヲ得ル所以ニ非ズト。E. Ebstein^⑥ハ約百例中、先天性漏斗胸ニハ他ノ畸形ヲ伴フコト屢々ニシテ恐ラク其一定數ハ子宮内ニ發生シ、殊ニ子宮腔ノ狹小ニ起因シ、其原因トシテハ遺傳又ハ神經病の素質ガ最モ意義アルモノニシテ、後天性ナルモノハ少シト。而シテ其内、四十二例ニ就テ胸骨ノ比較計測ヲナシタレドモ、W. Ebstein^⑤ノ說ヲ追證スルコトヲ得ザリキ。

次ギニ Versé^②ハ屍體剖檢上、胸骨體ノ異常ニ長キヲ認メ、本畸形ノ原因トシテ確實ナル證據ナシト雖モ、恐ラク胸骨體ノミガ急速ニ過度ノ長徑發育ヲナシ、而シテ肋骨ガ下方ヨリ之ニ對シテ作用スルガ故ニ其緊張ヲ調節センガタメ凹陥ヲ招來シ、以テ異常ノ基礎ヲナシ、生後漸次ニ畸形ヲ形成スルナラント。

Hüber^⑦ハ通常ノ佝僂病型トシテ述ベテ曰ク、佝僂病胸廓ニ於テ、肋骨ノ化骨ガ著シク前方ニ進行シ、軟骨ノ屈折部及ビ前胸壁ガ甚シク後方ニ止マル時ハ前胸壁凹陥シ、胸骨ハ内方ニ向ツテ凸狀ニ彎曲スト。Schiffel^⑧ハ肋骨ノ過度ノ長徑發育ニヨリ胸骨ガ内方ニ壓排セララルモノト主張セリ。

Bystrow^⑨ハ内旋セル上腕ガ、前胸壁ニ於テ斜走セル凹窩ニ一致セルヲ認メ、Zuckerlandl^⑩ハ羊水過少ノ子宮内ニ於テ過度ニ屈曲セル胎兒ノ願ガ前胸壁ヲ壓迫シ、發育經過中ニ増加セルモノナリトセリ。又 Marchand^⑪ハ膝ガ宛モ凹窩ニ一致セルヲ認メタリ。

其他萎縮性縦隔竇炎ヲ原因トスルモノアリ。Wollez⁽¹⁴⁾ハ横隔膜ノ牽縮ニヨリテ凹窩ヲ生ズトセリ。

Eichholz⁽¹⁵⁾ハ外傷ニヨリテ胸骨凹陷シテ漏斗胸ヲ形成セル一例ヲ報告シ、Flesch⁽¹⁶⁾ハ原因トシテ認ムベキモノナシト云ヘリ。

以上述べタル如ク、本畸形ノ因ツテ來ル根源ニ就イテハ諸説區々ニシテ而モ悉ク憶説ニ止マリ、其真相ニ至リテハ未ダ之ヲ詳ニセズ。要スルニ、先天性素因ヲ要素トシ、呼吸其他ノ外來的作用ハ單ニ誘因ニ過ギズトナス者ト、靴工胸、陶工胸、縫匠胸等ト共ニ職業ニヨル機械的壓迫作用ニ重キヲ置キテ後天的發生論ヲ唱フルモノトアリ。然レドモE. Elsteinノ説ケル如ク、偶々靴工等ガ先天的ニ漏斗胸ヲ有スルトキハ、職業ニ起因シテ生ジタルモノト誤認スルコトアルヲ思ハザル可ラズ。而シテ外傷ニヨリテ生ズルガ如キハ寧ロ破格ト見做シテ可ナルガ如シ。

次ギニ、漏斗胸ガ原因トナリテ後來疾病ヲ誘發スルコト有リヤ否ヤノ問題ニ關シテモ諸家ノ見解ニ徑庭アリ。Niemeierハ斯ノ如キ胸壁ノ凹陷ニヨリテ當然、臟器(殊ニ心臟、肺臟、胃—太陽叢)ガ轉位又ハ壓迫ヲ蒙リ、殊ニ癍痕ニヨルモノノ如キハ害ヲ及ボスコト大ナルハ疑フ可カラズト稱シ、K. Bruns等ハ、臟器ノ壓排ハ病因的ニハ意義ナシト、而シテ本畸形ハ變質的徵候ト見ルベキモノニシテ、精神病ヲ伴フコト稀ナラズト記載セリ。Fleschノ例ハ癍癩ノ所有者ニシテ、Fleschノ父モ、胸廓ノ佝僂病性彎曲ノタメ胸部臟器ノ狹メラレタル患者ニハ屢々癍癩發作ノ起レルヲ實驗セリト云フ。

自 驗 例

第一例 患者 J・五 十六歳、男、學生。

初診 大正八年十一月一日。

主訴 食後上腹部膨滿感、振水音、腹鳴。

血族關係 兄弟六人ニシテ患者ハ其末弟ナリ。長兄ハ最輕度ノ漏斗胸

ヲ有ス。祖父ハ腦溢血、父及姉ハ肺結核症ニテ死シ、兄ハ肋膜炎ニ罹レルコトアリ。

既往病歴

生來餘リ健ナラズ。感冒及ビ胃腸ノ疾患ニ罹リ易シ。

現病歴

大正八年九月末ヨリ、心窩部ニ於テ朝起時及ビ空腹時ニ振水音ヲ發シ、少シク過食スレバ食後疼痛ヲ來ス。現今粥食ヲ食スルモ尙ホ食後上腹部膨滿感、時々腹鳴アリ。便通ハ一日一行ナルモ、隔日ニ下劑ヲ服用シツ、アリ、下劑服用當日ハ一日二行、軟便ヲ排泄スト。

現症

体格纖長、榮養中等、体重四九・五斤。身長一六三・五釐。

胸部處見

胸廓ハ扁平、横徑比較的大ニシテ前後徑小ナリ。側胸壁モ亦比較の平坦ナリ。前胸壁ニ於テ、上方第二肋骨ノ高サヨリ、下方心窩部ニ互リ舟狀ヲ呈セル凹窩アリ。其部ノ皮膚ハ變色ヲ呈セズ。胸骨ハ下部ニ於テ特ニ深ク彎入シ、皮下ニ直ニ觸知スルコトヲ得レドモ劍狀突起ハ明ナラズ。反ツテ其部ハ下方ヨリ殆ンド錯直ニ上行セル兩側第六―七肋軟骨ヲ以テ裂隙狀ヲ呈シ、從ツテ上腹角ハ甚ク銳角ヲ示ス。凹窩ノ左右縁ハ凹窩ニ應ジテ彎曲セル肋軟骨ノ外端ヨリナル、就中、第六肋軟骨部最モ提起ス。

胸圍

(乳頭高サニテ)六九・〇釐。

胸廓横徑

(a)乳頭ノ高サニテ、二三・五釐、(b)胸骨下端ノ高サニテ、二二・二釐。

左右乳頭間距離

一一・五釐。

胸廓前後徑

乳頭部ニテ、一五・三釐。

胸骨ト對側脊椎間距離

(a)ルイス角部ニテ、一一・〇釐、(b)左右乳頭結合線上、一四・三釐、(c)凹窩ノ最深部(左右第五肋骨結合線上)ニテ八・八釐。

凹窩ノ深サ

(a)ルイス角部、一一・五釐、(b)左右乳頭結合線中央部、三・〇釐、(c)第五肋骨結合線中央部(最深部)四・五釐。

凹窩ノ幅(左右徑)

(a)第二肋骨ノ高サニテ、八・〇釐、(b)第三肋骨ノ高

サニテ、一〇・〇釐、(c)第五肋骨ノ高サニテ、一三・〇釐、(d)第八肋骨ノ高サニテ、八・〇釐。

凹窩ノ長サ(上下徑)

最長(正中線部)二〇・〇釐。

凹窩ノ頂点(ルイス角部)ヨリ

(a)胸骨下端マテ、一三・〇釐、(b)左右第八肋骨結合線中央マテ、一九・〇釐、(c)第八肋骨ノ提起部(即チ凹窩ノ縁)マテ一八・〇釐。

乳頭ヨリ

(a)第八肋骨ノ提起部(凹窩縁)マテ、一一・〇釐、(b)内方凹窩縁マテノ横徑左側二・〇、右側一・五釐。

其他脊椎ハ右側彎ヲ呈シ、其兩側ハ之ニ沿ヒテ凹陷セリ。

聽診及ビ打診上著明ナル變化ヲ認メズ。

腹部所見

胃上界ハ臍上二横指、下界ハ臍下一横指、肝臟ヲ觸知ス、下腹部ハ特ニ膨隆セズ。

「レントゲン」検査所見

心臟ハ左下方ニ轉位シ、其右縁ハ左胸骨縁、心尖ハ乳線外第五肋間ニアリ。右肺ニ於テ氣管枝周圍炎、及ビ第二肋間部ニ結核性結節ヲ認メ、胃ハ下垂ス。

診斷

漏斗胸、内臟下垂症。

第二例

患者 M・I 二十一歳、男、學生。

初診

大正九年一月二十六日。

主訴

惡寒、盜汗。

血族關係

兄弟六人、患者ハ其第五子ナリ。兄一人軍隊生活中肋膜炎ニ罹リ、妹一人腦膜炎ニテ死亡セリ。其他神經病的的精神病的及ビ畸形的遺傳關係ヲ認メズ。

既往病歴

生來健ナラズ。二三年前ヨリ感冒ニ罹リ易シ。

現病歴

本年一月三日頃輕熱(三七・八)ヲ以テ口蓋扁桃腺腫大シ疼痛アリシモ數日ニシテ輕快シ、次イテ二十三日頃ヨリ惡寒、輕熱、盜汗アリ。

原著 大塚 漏斗胸ニ就テ

咳嗽、咯痰ナシ。

現症 體格中等、榮養中等、皮膚黃褐色ニシテ稔貧血色ヲ呈ス。頰部輕度ニ潮紅ス。身長一六九・〇糎。體重五五・七斤。

胸部所見 前胸壁ニ菱形ニ類スル凹窩アリ、第二肋骨ノ高サヨリ上腹部ニ互リ、左右ハ乳線ニ達ス。

胸圍 (a) 乳頭部ニテ 八一・五糎、(b) 第六肋間ノ高サニテ 七八・〇糎。胸廓橫徑 乳頭ノ高サニテ 二七・〇糎。

左右乳頭間距離 一七・〇糎。胸骨對脊椎間距離 (a) ルイス角部 一五・〇糎、(b) 左右第六肋間結合線中

(凹窩ノ最深部) 一四・〇糎。中央部(凹窩ノ最深部) 二・五糎。凹窩ノ深サ (a) 左右乳頭結合線中央部 二・〇糎、(b) 左右第六肋間結合線

凹窩ノ長サ(上下徑) 二三・〇糎。

今、以上二例ニ於ケル凹窩ノ大サヲ他ノ報告例中著明ナル二三例ト比較スレバ左ノ如シ。

著者	性別	年齡	體重(斤)	身長(糎)	胸圍(乳頭ノ高サニテ)	胸廓橫徑(乳頭ノ高サニテ)	胸廓前後徑	胸骨對脊椎間距離
Versé, I.	女	四八	三八・〇	一五九・〇	六九・〇	二五・〇	一一・二五	九・二五
	男	二〇	一七一・〇	八二・〇	二八・〇	一六・〇	一一・五	
Fiesch	男	二四	一六	四九・五	六九・〇	二二・五	一五・三	八・八
	男	二二	五五・七	一六九・〇	八一・五	二七・〇	一五・〇	一四・〇
Tegel	男	一六	四九・五	一六三・五	六九・〇	二二・五	一五・三	八・八
	男	二二	五五・七	一六九・〇	八一・五	二七・〇	一五・〇	一四・〇

凹窩ノ幅(左右徑) 一七・〇糎。

凹窩ノ頂点ヨリ (a) 左右乳頭結合線中央部マデ 八・五糎、(b) 第六肋骨ノ凹窩緣(隆起部)マデ 二・〇糎、(c) 乳頭マデ 一四・五糎。

乳頭ヨリ凹窩ノ下端マデ 一二・五糎。胸骨ノ下端ヨリ第八肋骨ノ隆起部(凹窩緣)マデ 九・〇糎。

左右第八肋骨隆起部(凹窩緣)間ノ距離 九・〇糎。打診及聽診 右肺尖稍短調、兩肺尖殊ニ右側呼吸氣延長、呼吸音粗裂、

其他一汎ニ呼吸音微弱ナリ。腹部所見 上腹部凹陷シ、下腹部ニハ膨隆ヲ認メズ。上腹部ニ輕度ノ

腹水音アリ。肝臟其他ノ下垂ヲ證明セズ。レントゲン検査所見 兩肺尖ニ陰影アリ。兩側氣管枝周圍炎ヲ認ム。

診斷 漏斗胸、肺尖加答兒。

四 高ノ深サ	四〇	六〇	六〇	四・五	二・五
四 高ノ長サ	二五〇	二五〇	二四〇	二〇〇	二三〇
四 高ノ幅	一九〇	一八〇	一八〇	一三〇	一七〇

Fleisch、其例ニ於テ前後胸壁ノ厚サヲ七・一糎トセバ、胸腔内ニ於ケル胸骨對脊柱間ノ間隙ハ四・四糎ナリト推定シ、Fesselハ同様ニ九糎ノ間隙ヲ有ストセリ。Verge、ガ屍體ニ於テ計測シタルニ最小内徑ハ四・五糎ナリキ。余ノ例ニ於テモ Fleischノ說ニ倣ヘバ其間隙ハ第一例ニ於テ一・七糎、第二例ニ於テ六・九糎ヲ有スルニ過ギザルベシ。但シ胸壁ノ厚薄ハ各人ノ身長、胸圍、榮養狀態等種々ノ狀況ニヨリ多少ノ相違アルベキハ想像ニ難カラズ。從ツテ前記ノ推定數ヲ以テ絶對的正確ナリトスル能ハザルハ勿論ナレドモ、而モ其間隙ノ甚ダ小ナルノ事實ハ之ヲ以テ察知スルニ足ルベシ。

要スルニ以上二例ニ就テ畸形成立ノ原因ヲ檢索スルモ著明ナル證徴ヲ擧グルヲ得ザリキ。又尙僕病、或ハ神經病的、精神病の遺傳素因トシテ認ムベキモノナシ。唯第一例ニ於テ其兄ガ輕度ノ漏斗胸ヲ有スルガ如キハ、多少本畸形ガ遺傳的關係ヲ有スルカヲ疑ハシム。而シテ兩者共ニ後天的誘因又ハ職業的誘因並ニ外傷的原因ノ認ムベキモノナシ。

次ニ本畸形ニ由來シテ特ニ疾病ヲ惹起セリト斷定シ得ベキ確證ナシト雖モ、兩例共生來餘リ健ナラズ、感冒ニ罹リ易キガ如キ、又共ニ血族關係ニ於テ結核性遺傳素因ヲ有シ、共ニ胸部ニ於テ結核性疾患ノ病徴ヲ認メ、第一例ニ於テハ内臟下垂症ヲ有シ、第二例ニアリテハ明カニ臨床上肺炎加答兒ヲ有スルガ如キハ本畸形ト全然關係ナキモノトシテ否定シ去ル能ハザルベシ。即チ本畸形ハ呼吸器若クハ消化器系統ニ向ツテ罹患シ易キ素因ヲ與フルモノト云フモ可ナルガ如シ。

引用書目

- (373)
- 1) W. Ebstein, Deutsches Archiv f. klin. Med. Bd. 30, S. 411, 1882. Bd. 33, S. 100, 1883. 2) 橋本節齋、近世診斷學第八版一四三頁。
- 3) E. Ebstein, Nach Schmitt's Jahrbücher, Bd. 304, S. 243, 1909. 4) 松岡道治、中外醫學新報第六五九號一一七五頁 5) K. Bruhns,

(374)

- Diagnostik-Therapeutisches Lexikon. III. S. 967. 6) **M. Versé**, Beitr. z. allg. Pathol. u. pathol. Anat. Bd. 48, S. 311, 1910. 7) **Niemeyer**, Virchow's Archiv, Bd. 49, S. 235, 1870. 8) **Eggel**, Virchow's Archiv, Bd. 49, S. 230, 1870. 9) **Hüter**, nach Fleisch (16).
 10) **Schifter**, nach Fleisch (16). 11) **Bystrow**, nach Schmitts' Jahrbücher Bd. 296, S. 96, 1907. 12) **Zuckerhandl**, nach Versé (6).
 13) **Marchand**, Eulenbergs' Reizeneyklopädie, 3. Aufl. Bd. 15, S. 441, 1897. 14) **Wollez**, nach Versé (6). 15) **Eicholst**, Deutsches Archiv f. klin. Med. Bd. 48, S. 613, 1890. 16) **Flesch**, Virchow's Archiv, Bd. 57, S. 287, 1873.